



猫だって**幸せ**に暮らしたい

猫の幸せとは

野良猫に餌をあげたことはありますか。

お腹が空いているだろうと野良猫に餌をあげるのは、優しい気持ちからだと思います。しかし、お腹が満たされた野良猫は、その後**幸せ**に暮らしていけるでしょうか。

今回、私たちの生活の中に当たり前のようにいる猫について特集し、人も猫も幸せな暮らしについて考えます。

猫のこと、知っていますか

猫は非常に繁殖力の高い動物

メスの子猫は、生まれた翌年には確実に繁殖できる体に成長し、年に何回も出産できるなど、繁殖能力がとても高い動物です。計算上では、1匹のメス猫から1年で20匹以上増えることもあります。

猫は野生動物ではない

猫は、昔から人のそばで暮らしてきた生き物です。決して野生動物ではありません。本来は人間に頼ることしか生きていけない動物です。自分自身の力で、置かれている環境で自分の食べ物を得ることができる野生動物とは根本的に違います。

飼い猫の寿命は20年以上

飼い猫の寿命は、長ければ20年以上になることもあります。飼い主もそれだけ歳をとり、暮らし方にも変化があるでしょう。それでも、本当に最後まで飼うことができるか、よく考えてみましょう。

猫を捨てることは犯罪

令和2年に改正された動物愛護管理法により、愛護動物を遺棄した者は、1年以下の懲役または100万円以下の罰金に処するとされています。以前は比較的安易にできた保健所の引き取りも、原則、保健所が引き取りを拒否できるようになりました。





野良猫に餌をあげる方へ

野良猫を見かけて「かわいそうだから餌をあげたい」と思う気持ちには、多くの方が持つものだと思います。しかし、餌をあげるだけでその後の対応をしない無責任な餌やりは、実は猫のためにも地域のためにもなりません。

猫に関する相談の多くは、鳴き声やふん尿、過剰な繁殖による生活環境の悪化についてです。無責任な餌やりは、生活環境へ悪影響を及ぼすだけではなく、住民同士

のトラブルや不幸な猫の数を増やすことにもつながります。

餌をあげるなら飼うことを考える

不妊・去勢手術を行い家の中で飼い、生涯にわたってお世話をする。

地域の人々と見守る

自然のまま見守り、地域と連携して「おおいたさくら猫プロジェクト」への参加を検討する。

自分で譲渡先を探す

「家では飼えないけれど助けたい」という場合は、自ら新しい飼い主を探し譲渡につなげる努力（新聞広告・SNS・張り紙など）をしましょう。その際も、不妊・去勢手術や健康管理など、譲渡前の準備をしておくと安心です。

野良猫を見て「何とかしたい」と思ったとき、その気持ちを行動に移すには責任が伴います。

猫も人も安心して暮らせる地域のために、皆さんの理解と協力が必要です。



猫を飼う前に考えてほしいこと

最期まで責任を持つ

猫を飼うということは、その命に最期まで責任を持つことです。まず大切なのは、猫が亡くなるその日まで、愛情と責任を持ってお世話をするという心構えです。

室内飼育

上下運動と猫のおもちゃで愛情を持って遊ぶことで十分にストレスは発散できます。また、けがや病気、交通事故、近隣トラブルを防ぐことができ、猫の寿命も延びる傾向にあります。

飼わない愛情もあります

猫を飼うということは、猫を家族として迎えることです。自身の状況や将来を考え、最期までお世話ができないなら「飼わない」という決断も命を守ることにつながります。

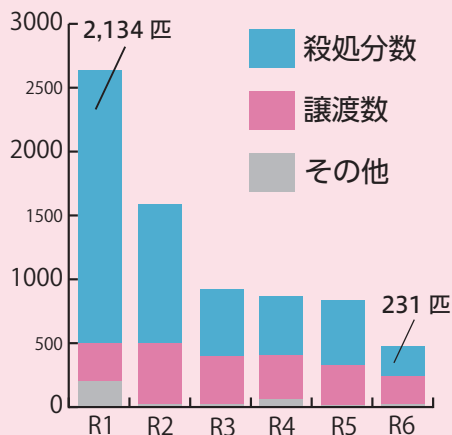
不妊・去勢手術

不妊・去勢手術は、猫の健康を守るだけでなく、望まない妊娠を防ぐためにもとても重要です。飼い主としての責任ある行動の1つといえます。

身元表示

突然の迷子、災害、盗難、事故などが起こったとき、猫は住所も名前も言えません。そんなとき、迷子札やマイクロチップは確実な身元証明となり、飼い主の元に帰ることができます。

■ 猫の殺処分数の変化



年々、県全体での引き取り数・殺処分数は減少しており、不妊・去勢手術の啓発や譲渡活動、さくら猫プロジェクトなどの地域猫活動の広がりが、着実に成果を上げている表れだと感じています。

ゆくとも としや
行友 俊弥 さん

県北部保健所 獣医師



守れる命を増やすために

不妊・去勢手術は、望まない命を生み出さないためにとても大切な手段です。手術をかわいそうだと言う人もいますが、守れる命を増やすための優しさでもあります。

外で生まれた子猫の多くは、病気や事故、飢えなどで命を落としてしまいます。手術を行うことで、そうした過酷な状況に置かれる命を減らすことができます。

さらに、手術には猫自身や飼い主、そして猫が暮らす地域にとっても多くのメリットがあります。

猫にとってのメリット

- ・大声で鳴く、おしっこでマーキングするなどの発情期特有の行動がなくなり、性格が穏やかに
- ・乳腺腫瘍、生殖器系の病気のリスクの軽減
- ・けんかや脱走の機会が減り、けがや感染症の軽減

飼い主にとってのメリット

- ・異性を求めている脱走が軽減され、

交通事故の予防に
望まない妊娠を予防

地域にとってのメリット

- ・野良猫の数が抑えられ、ふん尿や鳴き声などのトラブルの軽減

このように不妊・去勢手術は、**猫と人が安心して暮らせる地域づくりにつながります。**





おおいたさくら猫プロジェクトを知っていますか

このプロジェクトは、野良猫に必ず不妊・去勢手術を行い、地域住民と話し合いながら共同で管理する取り組みです。餌やりや排泄場所についてのルールを決めて、一代限りの命として見守ります。手術が済んだ猫の耳を桜の花びらの形にカットすることから「さくら猫」と呼ばれています。宇佐市でも、このプロジェクトへの関心が高まりつつあり、令和

2～6年度までの5年間で195匹の猫がさくら猫として地域に戻されています。特に、令和3年度以降は毎年40匹前後の猫が対象となっており、地域のボランティアや住民の皆さんの協力によって、着実に成果が出てきています。こうした活動は、地域での野良猫のトラブルを減らし、人と猫が共に暮らせる環境づくりにもつながっています。

🐱 なぜ耳をカットするの？

その猫が不妊・去勢手術済みであることが一目でわかるため、同じ猫が何度も捕獲されることを防ぎ、地域の野良猫の数を効果的に管理できます。右耳と左耳のカットの違いは性別を示します。

🐱 耳カットは痛くないの？

不妊・去勢手術をする時、麻酔が効いている間に耳をカットし、すぐに止血をします。その後の出血はありません。



おおいたさくら猫プロジェクトの仕組み



① 活動団体の登録

まず、生活環境課で活動団体の登録をします。



② 猫の捕獲

猫を捕獲し、県北部保健所へ連れて行きます。ここから県の動物愛護センターに連れて行きます。捕獲器の貸し出しもできます。



③ 不妊・去勢手術

衛生管理をし、麻酔をした状態で手術します。手術ボランティアさんや動物病院の先生など多くの方々が関わっています。



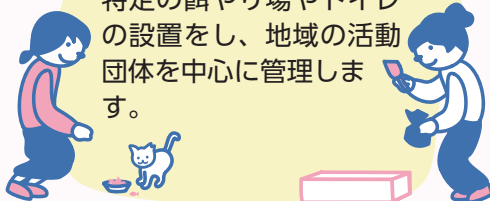
④ 元の場所に戻す

手術が済んだ猫は、県北部保健所に戻されます。活動団体が引き取って、元の場所へ戻します。



⑤ 活動団体で管理

特定の餌やり場やトイレの設置をし、地域の活動団体を中心に管理します。



■ 問合せ

生活環境課 環境保全係
(☎ 27-8132)

Dog Home あんちゃん 2271

令和3年から本格的に野良猫の保護活動、里親との縁結び活動をボランティアで開始。

2271は、活動を始めた頃の県内の犬・猫の年間殺処分数。この活動をしていく上で、忘れられない数字。現在8人のボランティアさん、36人のサポート会員さんの支援に感謝しながら、1匹でも多くの猫を救いたいと活動中。活動を共にしてくれるボランティアさん、サポート会員さんも随時募集中。

問合せ ☎ 080-6807-2570



Instagram
アカウント名
@anchan2271



1匹でも多くの猫が幸せに暮らせるように

持丸さんは、小さい頃から犬が大好きで、野良犬を助ける場所を作りたいと思っていたそう。大人になって、犬を連れて散歩していると、野良猫が多くいるのに気づき、助けたいと思ったのが保護猫の活動を始めるきっかけになったと言います。

私のところには、捨てられた子猫や飼い主の死亡などで行き場のない猫の相談が寄せられます。こちらでも全ての猫の保護はできないので、お話を聞き、相談者さんにできることはやってもらいます。

どうしてもこちらで保護するしかない猫は、検査やワクチン接種のため動物病院を受診することになるので、医療費も高額になります。

ありがたいことに寄付などいただく事もありますが、最後は自己資金で賄うことになりますね。それでも、ここ（市内山下の自宅）に連れて来られたら、一番良いのですが、最近は30匹ほどをいつも保護している状態で、相談を受ける猫の20%も救えていない気がしま

す。私も1匹でも多く助けたいと思うのですが、やっぱり限界もあって…。皆さん、できることは違うと思うのですが、まず自身でできることはやってほしいですね。

月に3回のペースで保護猫とのふれあいカフェも開催し、里親さんにつなげています。里親希望者の飼育環境などを確認し、トライアル期間後に正式に譲渡することになっています。里親にはなれないけど、猫と触れ合いたいという方もぜひ参加してほしいですね。

譲渡した猫の里親さんから「この子を引き取って、本当に毎日癒されて、幸せなんです」と連絡をもらうと、里親さんに引き取られた猫たちもきつと幸せに暮らせてると思うので、うれしいと話す持丸さん。今後も1匹でも多くの猫が幸せに暮らせるように活動を続けていくそうです。





保護猫の里親に

今では3姉妹として家族になれた

からしま 恵子 さん、りん 凜 さん 親子

2匹の保護猫の里親になった辛島さん親子に保護猫との生活について、お話を伺いました。

里親になったのは、娘が一人っ子で兄弟姉妹がいなくて、寂しいというところで猫を迎えようかというのがきっかけです。よくテレビで保護猫の番組を見ていて、宇佐にもいるのかなと探し始めたところ、持丸さんに出会いました。初めて、保護猫のふれあいカフェに行ったときに、なっちゃんがうちの娘の膝の上に乗ってきて、ご縁かなと思って、なっちゃんを迎え入れました。

保護猫に会う前に親子で餌のことやトイレのお世話のことなど猫の飼い方を事前に調べて、猫を飼うのに必要なケージなども全てそろえて、猫との生活をシミュレーションしました。あとは餌代や医療費について、どれくらいかかるかも調べました。娘とは買い物に行った時のお菓子は一つまでなど無駄遣いはしないこと、餌やりなどのお世話をするかなどを親子できちんと話し合ってから、保護

猫に会いに行きました。持丸さんにもその覚悟が伝わったのか、すぐに里親のお話になりました。トリアル期間を経て、正式な里親になるまでに、終生飼養・完全室内飼育ができるか、飼育環境などをチェックするための自宅訪問など、いろいろな確認がありました。持丸さんも次こそは保護した猫たちに幸せになってほしいというお気持ち強いようです。

まず、なっちゃんを迎え入れ、最近こっちゃんをお迎えしました。ふたりともやっぱり性格が違って、なっちゃんは寂しがり屋で朝も起こしにきたりして、構ってほしいみたいです。こっちゃんは、最初に会った時は他の兄妹と比べて本当に小さくて、育つかな



と心配しました。今もまだ目の病気で通院していますが、3姉妹で仲良くやっていますね。うちの娘は、なっちゃん、こっちゃんを家族として迎え入れてから、ふたりに早く会いたいからと、学校から早く帰るようになりました。とてもかわいがっているし、ふたりの存在がうれしいんでしょうね。

辛島さんのお話を伺い、保護猫の里親になるということは、単に「猫をもらう」行為ではなく、その猫と家族として最期まで向き合う覚悟を持つことだと思いました。その覚悟は猫の暮らしを幸せにし、その幸せは、人の暮らしを豊かにするのだと思います。

1匹でも多くの猫が**幸せ**な暮らしができますように。

